



平成 28 年 2 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社 バンダイナムコホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 田 口 三 昭
(コード番号 7832 東証第一部)
問 合 せ 先 取締役 経営企画本部長 浅 古 有 寿
(T E L : 0 3 - 6 6 3 4 - 8 8 0 0)

「当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要」について

当社は、取締役会の実効性を高め企業価値を向上させることを目的として、取締役会の実効性に関する評価を行いましたので、その結果の概要を公表いたします。

1. 評価の方法・プロセス

取締役会の実効性を測定するための質問票(注)を作成のうえ、全ての取締役および監査役計 14 名に対して質問票を配布し、回答を得ました。そのうえで、第三者専門機関による集計結果を踏まえ、社外取締役 3 名、社外監査役 3 名の独立役員で構成される会議体「独立役員会」において、結果に基づく分析・検証を行い、取締役会にて現状の評価結果および課題の共有と今後のアクションプランについて、建設的な議論を行いました。

(注) 取締役会評価の質問票の大項目

- | | | |
|--------------------|---------------|----------------|
| ・取締役会の構成 | ・取締役会の運営状況 | ・ボードカルチャー |
| ・役割貢献 | ・リーダーシップ | ・企業戦略の決定とゴール設定 |
| ・リスクの理解と対応 | ・健全な意思決定 | ・経営資源のモニタリング |
| ・執行・パフォーマンスのモニタリング | ・ステークホルダーへの対応 | |

2. 取締役会の実効性に関する評価結果の概要

当社取締役会は、規模・構成・運営状況等において、経営上重要な意思決定や業務執行の監督を行うための体制が構築されていることを確認しました。また、各構成員が果たすべき役割を十分に理解し、多様な経験や専門性をもつ社外役員を含めて活発な議論が行われていることを確認しました。

一方、課題として、3 ヵ年の中期計画に対する議論・検討は十分になされているものの、ビジョンとして掲げる「世界で最も期待されるエンターテインメント企業グループ」に向けて、より中長期的なあるべき姿やグローバルな視点での事業の方向性についての議論を、今後さらに行うべきとの提言が得られました。

3. 今後の対応

当社取締役会は、この評価結果を踏まえ、より中長期的な視点での議論に十分な時間を割き、取締役会の実効性のさらなる向上を図ってまいります。

なお、取締役会の実効性の評価につきましては、今後も定期的実施することを予定しております。

以 上